

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	東京国際空港ターミナル 株式会社
特定テナント等事業者	全日本空輸 株式会社
特定テナント等事業者	日本航空 株式会社
特定テナント等事業者	日本空港ビルデング 株式会社

(2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		東京国際空港第3旅客ターミナルビル							
事業所の所在地		東京都大田区羽田空港二丁目6番5号							
業種等	事業の業種	分類番号	R95	R_サービス業...他に分類されないもの	その他のサービス業				
		産業分類名	その他のサービス業						
	事業所の種類	主たる用途	工場その他上記以外						
		建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)	前年度末	378,455.57	m ²	基準年度	376,521.17	m ²	
		用途別内訳	事務所	前年度末	47,530.60	m ²	基準年度	47,530.60	m ²
			情報通信	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			放送局	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			商業	前年度末	19,192.57	m ²	基準年度	19,192.57	m ²
			宿泊	前年度末	12,470.93	m ²	基準年度	12,470.93	m ²
			教育	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			医療	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			文化	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			物流	前年度末	22,519.33	m ²	基準年度	22,519.33	m ²
駐車場	前年度末		85,958.36	m ²	基準年度	85,958.36	m ²		
工場その他上記以外	前年度末	190,783.78	m ²	基準年度	188,849.38	m ²			
事業の概要		東京国際空港第3旅客ターミナルの管理・運営							
敷地面積		138,893.89 m ²							

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名称	東京国際空港ターミナル 株式会社 施設部
	電話番号等	03-6428-5941
公表の 担当部署	名称	東京国際空港ターミナル 株式会社 企画部
	電話番号等	03-6428-5901

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス： http://www.tiat.co.jp/	
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：	
		所在地：	
		閲覧可能時間	
	冊 子	冊子名：	
		入手方法：	
そ の 他	アドレス：		

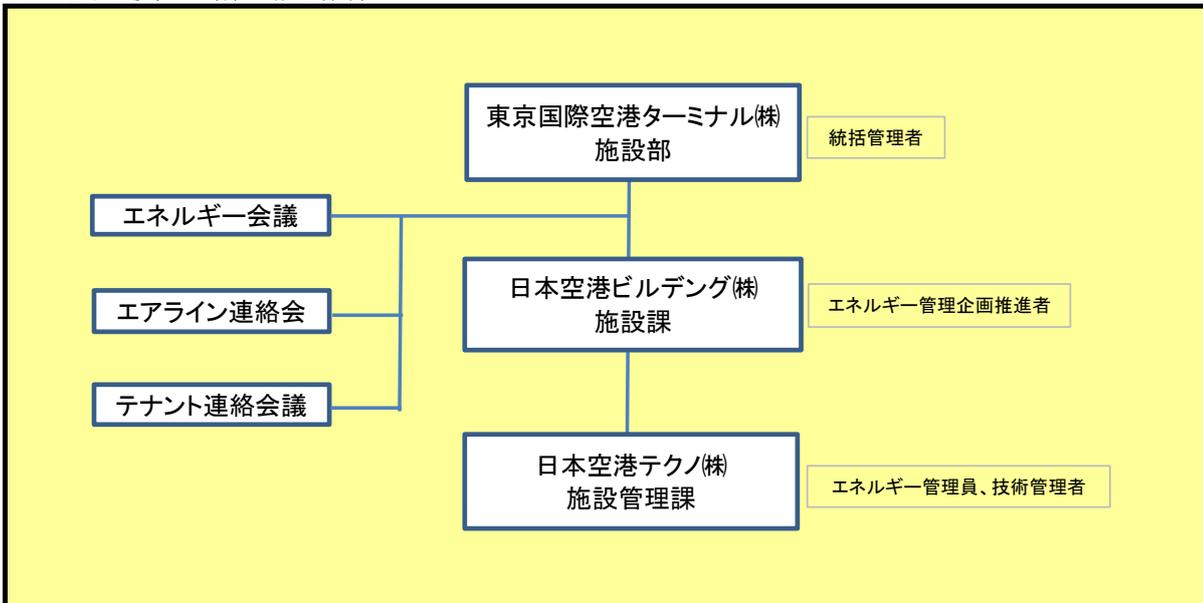
(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2011	年度	事業所の使用開始年月日	2010	年	8	月	1	日
特定地球温暖化対策事業所	2014	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

<p>1. 事業所（建物）としての積極的な省エネの取り組み。（エネルギー会議の開催）</p> <p>2. 社員・入居テナントに対する環境意識向上のための啓発活動及び省エネ協力。</p>
<p>再エネの導入・利用に関する取組みについて： 太陽光パネルを設置（2014年度）して発電したエネルギー（電気）を自家消費している。</p>

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	エネルギー会議を開催し、エネルギーの使用量を最適に管理する。 また、当社を中心に関連事業者及び入居テナント一体となって特定温室効果ガス削減に努める。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	厨房・雑用排水・雨水及び冷却塔ブロー水を処理し、中水としてトイレ洗浄水に再利用。 節水を促す呼びかけの実施。		
削減義務の概要	基準排出量	53,084 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	II
	排出上限量（削減義務期間合計）	220,301 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	17%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2025 年度から 2029 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	高効率設備機器を率先して導入し、快適空間の確保と特定温室効果ガス削減の両立を目指す。 増築や旅客数の増加によるエネルギー増加が予想される為、関連事業者及び入居テナントとの連携を深め、特定温室効果ガス削減に努める。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	厨房・雑用排水・雨水及び冷却塔ブロー水を処理し、中水としてトイレ洗浄水に再利用。 節水を促す呼びかけの実施。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO ₂ ）		28,503	29,447			
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO ₂ ）					
	メタン（CH ₄ ）					
	一酸化二窒素（N ₂ O）					
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六ふっ化いおう（SF ₆ ）					
	三ふっ化窒素（NF ₃ ）					
上水・下水		95	105			
合計		28,598	29,552			

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	75.7	77.8			

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2011年度～2013年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
変更年度	○					

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	II
----------	----

(4) 削減義務期間

2020年度から 2024年度まで

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	53,084	53,084	53,084	53,084	53,084	265,420
	削減義務率 (B)	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	25.00%	
	排出上限量 (C = Σ A - D)						220,301
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						45,119
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	28,503	29,447				57,950
	排出削減量 (F = A - E)	24,581	23,637				48,218

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input checked="" type="checkbox"/> 削減対策	<input checked="" type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	<ul style="list-style-type: none"> ・削減対策(例年) 照明のLED化により、特定温室効果ガス削減につながった。 クールビズ・ウォームビズ時に空調機の発停・設定温度変更をこまめに実施した効果がみられた。 ・床面積の増減 増築したビジネスジェットターミナルが稼働し、その分の負荷が増加した。 ・その他 新型コロナウイルス感染症の緩和による復便に伴う旅客数増、及び各テナント復業によって増加となった。 		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
	【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】				
1	130300	13_換気設備の運転管理	換気ファン省エネベルトへの更新	2011～2017年度	耐用限度を超えたVベルトを省エネ用に更新
2	130100	13_空気調和の管理	空調機省エネベルトへの更新	2011～2017年度	耐用限度を超えたVベルトを省エネ用に更新
3	130100	13_空気調和の管理	クールビズ・ウォームビズ	2013年度～	空調供給先環境の適正化
4	150200	15_照明設備の運用管理	照明のLED化	2014年度～	パブリックエリアを中心にLED化
5	130100	13_空気調和の管理	空調機インバーター設定値の見直し	2014～2017年度	低負荷時のインバーター出力低減
6	170200	17_コージェネレーション	コージェネレーションシステムの導入	2010年度～	コージェネレーションシステムの導入
7	130100	13_空気調和の管理	空調機間引き運転	2015年度～	空調不要と判断したエリアの機器停止 (必要時のみ稼働させる運用に変更)
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
17					
18					
19					
20					
	(再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況)				
71	190100	19_再生可能エネルギーの 設備導入	太陽光パネルの導入	2014年度～	サテライト屋上に設置
72					
73					
	【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】				
81					
82					
83					
	【排出量取引の計画及び実施の状況】				
91					
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

当ターミナルでは、「地球と人に優しいエコ・エアポートの実現」を目指し、「大気」「騒音・振動」「水」「土壌」「廃棄物」「エネルギー」「自然環境」の環境要素7項目に対応した手法により、様々な環境技術を取り入れ、総合的な環境負荷低減対策に取り組んでいる。

また、「建築物総合環境性能評価システム（CASBEE）」において、空港施設では初めてとなる最高ランク（Sランク）を2010年7月に取得している。

主たる省エネルギー対策は以下のとおり。

- ・高遮熱断熱Low-e 複層ガラス
- ・屋上緑化、屋内緑化
- ・天井内換気、居住域空調、床吹出空調、輻射式床冷暖房
- ・CO₂制御、全熱交換器、VAV・CAV制御
- ・高効率機器の採用
- ・コージェネレーションシステム
- ・地中熱利用、中水熱利用
- ・太陽光発電設備
- ・自然採光、クール&ヒートチューブ
- ・雨水利用、排水再利用（水の循環利用）
- ・LED照明、内照サインのLED化
- ・昼光センサー、人感センサ
- ・透水性舗装
- ・超節水型大便器、節水型器具
- ・環境情報表示による啓発活動

運用段階における取り組みは以下のとおり。

【全体】

- ・BEMSによるエネルギー管理
- ・自然エネルギー、未利用エネルギーの有効活用（太陽光、地中熱、コージェネ廃熱等）
- ・雨水、排水の再利用（ターミナルへ中水供給）

【ターミナル共用部】

- ・エントランス、ロビー、通路等における照明の減灯および点灯時間の短縮
- ・エントランス、ロビー、通路等の空調設定温度の緩和および運転時間短縮
- ・トイレ洗面器の夏季温水停止（5月～10月）

【ターミナル専用部】

（店舗・サービス施設等）

- ・空調設定温度の緩和
- ・空調運転時間の短縮
- ・照明、OA機器類、冷蔵庫等の節電 他

（事務室）

- ・こまめな消灯・減灯
- ・空調設定温度の緩和
- ・空調運転時間の短縮
- ・ブラインド閉鎖による熱負荷軽減
- ・OA機器類、冷蔵庫等の節電 他

隔週エネルギー会議（年24回）を開催し、その都度テーマを掲げ、熱源機器のCOP向上、空調設備の設定温度の見直し等を行い省エネ対策に励んでいる。また、テナント連絡会や情報掲示板を通じて入居者に周知を行い省エネルギー対策を推進してきたが、今後はより一層の省エネルギー化を図るため、入居者と協力して消費エネルギーの抑制に努めていく。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

ターミナル本館5階展望ロビー、サテライト屋上に太陽光パネルを合計1,052kW設置し、自家消費している。今後、スペースが確保出来た場合には、太陽光パネルの増設を検討していきたい。